### 流行性感冒ヨリ來ル急性「スツウピヂテート」ニ就 テ

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-04
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/30652

1 三八

原

著

# 流行性寒冐ヨリ來ル急性「スツウピヂテート」ニ就テ

山 福 田 美 明

富

ラレ y o 狀態ト稱スペクー日乃至二十日間モ睡眠シ辛ウジテ目醒メシ例アリト記載セリ。 行セル「インフルエンザ」ハ度々重キ嗜眠性ヲ有シ國民呼ンデ睡眠病ト稱セリ。 ヲ有セリ。予ノ例ニ類似セルハバウル、クラウゼ、 態ノ外ハ發揚病又ハ早發痴病ニ類スルコト多シト。 家ノ實驗スル所ニシテ、 大正七年十一月來大流行 シタリ。 福岡ノ諸岡醫學士ハ神經學雑誌第十八卷第五號ニ於テ流行性寒冒ヨリ來ル精神病ニ就キテ具體的ニ統計上論究セ 尙ホ金澤ノ松原博士ノ言ニョルモ同病ニ因スル精神病ハ絕對多數ニシテ其病症ノ雑多ナレモ多クハ譫妄狀 本邦ニテハ東京精神病學會例會席上ニ於テ石川博士、池田、杉田、井村、後藤ノ諸先輩ノ報告ア セル流行性寒冒ニ就テハ既ニ幾多ノ報告アリ、 予ハ流行性寒冒ニ基ク急性「スツウビデテート」ト診断スベキ三例 ボーンノ共著ナル内科書中一千七百十二年チウビンゲン地方ニ流 殊ニ同病ヨリ來ル精神病ノ多數ナル 其睡眠ハ所謂「インフルヱンザ」ノ昏睡 恐ラク予ノ例ニ近キモノナランカ。

### 第 例

H

治

小學校生o

遺傳的關係 康ナリ兄弟ハ五名ニシテ兄ハ神經質ノ方ナレモ他ノ弟妹ハ健康ナリ。 詳ノ疾病ニテ死去ス父ハ四十八歳健康ナリ飲酒毎日三合母ハ三十五歳健 死ス母方ノ祖父ハ七十歳健康一日三囘飲酒五合位ナリ祖父ハ三十三歳不 安 **父方ノ祖父ハ四十三歳脚氣ニテ祖母ハ七十歳子宮病ニテ** 拾參藏、

旣往症 ハ優||艮ニシテ八点平均以上ニシテ家業ノ手傳ヲ好40 身体虚弱ナレ甩著患ナシ運動時又ハ夏季ニ頭痛ノ習癖アリ學業

本病々歷 本年四月四日寒胃ノ氣味ニテ發熱四十度二分ニ及ビ治療中

> **陷り時々一過性ニ餐熱アリテ痙攣サ伴ヒ身体强直狀ヲ呈ス予ノ初診ハ發** 廻ルナド精神錯亂狀トナリ終夜睡眠セザリシガ朝ニ至コテ恰モ昏睡狀ニ 同八日突然日常好マザル書物ヲ取リ出シテ 音讀シ 頭部ヲ振リ 廻シ 病后八日目則チ四月十五日午后十時頃ナリの 「偉ライ人ニナラネバ」トテ他人ノ制止モ関カズ氷枕ヲ被リテ室内ヲ駈ケ

現在症 ハ輕度ノ脳水腫ヲ有シテ大ナリロ 体格中等祭養不良一見昏睡狀ヶ皇シ外界ノ刺戟ニ反應セズ頭蓋

自覺的ニハ訴フル所ナク熟睡セルガ如シ

悸元進セリ腹部ニ異常ナシ 四肢ハ 强硬ニシテ 他動ニ抵抗アリ 膝蓋腱反 小シ對光反應存在ス眼瞼ハ下垂シテ自ラ開眼スルコ能ハズ開眼ヲ命ズル 他覺的ニハ脈搏九十搏熱三十八度五分、顏貎ハ感情ノ表現ナク瞳孔ハ縮 却テ緊閉スルノ傾キアリ頸部ニ輕度ノ强直チ有ス胸部ニ異常ナキモ心 アヒリス腱反射亢進シ足残象アルモバピンスキナシ、筋肉ニ攣縮ヲ

命ズルモ不能ナルカ叉ハ時ニ僅カニ日唇チ動カスニ過ギズっ モ發撃スルチ得ズ口語ニョリーニノ要求チ知ルベキノミ開口舌ノ提出チ 運動ハ時々極メテ遲徐ニ上肢チ動カスモ無力ナリ言語ハ微ニ口唇チ動ス

如シロ

手ニテ靜力ニ繪本ヲ持チーニ枚ヲ見ルニ至ルロ

頭部ノ疼痛チ訴フ手ヲ頭ニ擧ゲ頭ヲ動スニ至

五月三日

自然ニ開眼シー二時間ニ至ル時々欠岬アリテ空腹テ訴フルガ

ざ。

四月三十日

ノ屈曲稍活潑ナリ牛乳ヲ與フルニ姶メテ手ヲ出スロ

四月二十八日

四月二十六日

肢ハ自力ニテ矟屈曲スルモ甚ダ遅徐ニシテ伸展スル力ナシロ

少時間開眼凝視スルニ至ル時ニ笑フガ如キモ發音セズ下

口摸傾ニテ尿意チ告グルモ意チ通ゼズ床中ニ排尿ス下肢

五月一日、家人ノ食事ヲ見テ手ヲ出シ腹部ヲ擦リ空腹ヲ訴フ(言フ能へ

始メテ潮泣スルガ如ク悲哀ノ顔貎ヲ呈シ落淚ス○

認ム。

事力要求スルガ如ク記憶力ハ確實ニシテ病前ノ貯蓄金額及樹中見舞ノ人 嚥ナシ他ハ死人同様ニシテ昏々トシテ眠ムルガ如シ○ ラ要求スルコナキモ流動食ヲ與フルキハ緩徐ナガラ嚥下スルモ大ナル誤 譫語嘔吐等ナリ精神狀態ハ發聲不能ノ爲メ不明ナルモ意識存在シ時々何 ヨリ費ヒ受ケシ金額ヲ記憶シ或ハ訪問ノ友人、日曜日等ヲ知ル食物ハ自

經過 稍増加シ一日牛乳三合ソツア一合、汁少量ヲ嚥下ス○ ニ反應スルコナリ自ラ手ヲ上グルニ甚ダ緩徐ナリ時々磯ニ開眼ス攝食量 四月二十日諸症依然タルモ解熱シ三十六度五分ニ至ル外界ノ刺戟

爾后漸次諸症快復ニ向ヒツ・アリ 攝食談話体動モ日々増加スルニ

Ŧ

死人ノ蘇生セル想ヒアリト稱スの

病三十六日間目ニテ突然談話スルニ至リシカバ家人ノ喜ビー通りナラズ

突然母ヲ呼ビ父ヲ招キ「ソツプハ嬢ナド」談話スルニ至リ殼

五月廿三日 五月十五日 五月五日

# 例

八 木 拾七歳ノ女學生の

遺傳的關係 ニテ死亡、姉十八歳、 祖父母ノ關係不詳の 父ハ四十七歳ニテ健存ス母ハ三十二歳ニテ七年前肺結核 一妹十六銭、九銭共ニ健存ス其他ノ弟ハ幼時死亡セ

旣往症 極リシ外著患ナシo 幼少時ノ事ハ不詳七歳ニテ八木氏ニ來リ八歳頃約二週間寒冐ニ

ズ溫厚無口ニシテ質朴ノ方ナリ。

本病々歷 四月十四日初診ナリシガ三日前程ヨリ頭重ト全身倦怠食慾

不振アリ十四日午后就床ス。

他覺的ニハ脈搏九十六熱三十八度五分各部著變ナシ。

現在症 白覺症。全身倦怠、脫力感. 体格榮養中等皮膚ハ蒼白色ニシテ貧血ナルの 輕度ノ頭痛、 頭車、食慾稍不振アリ

嗜眠性

福田=流行性寒胃ヨリ來ル急性「スツウヒゲテート」ニ就テ

厚

本年三月廿日頃突然嘔吐頭重アリシモ治療四日間ニテ治ス生來頑健ナラ

三九一

云フ別ニ苦痛ナク睡眠ス。 同十六日 前同様脈搏百熱三十九度三分同夜十時熱四十一度ニ至リシト

チ動スモ發音スルニ至ラズ時々鼾聲チ聞の腱反射普通足現象ナシ手ニ輕反應ハ存在ス頭チ擡グルニ抵抗アリ項部強直ハ著明ナラズ談話スルニ唇のズルモ開カントスルモ力ナクシテ開キ能ハザルガ如ク瞳孔ハ小ニシテ起スモ返答ナク脈搏六五体溫三十六度二分胸部腹部ニ異常ナシ、開眼ヲ起スモ返答ナク脈搏六五体温三十六度二分胸部腹部ニ異常ナシ、開眼ヲ

# 二三例

康ナリ兄弟ハ幼少ニテ死去シ目下一人モナシで遺傳 的關係 - 父ハ飲酒一合半六十六歲腦滋血ニテ死ス母ハ八十四歳健

田

五拾四歲女子。

来シ輕度ノ半身不隨ヲ發シ約一ケ月ニテ治療セリo 既往症 生來健康一昨年始メテ心藏病ナリトテ治療中腦「エンポリー」ヲ

本病々歴 大正八年四月十五日頃寒胃ノ氣味ナリシガ差シタル事モナク 本病々歴 大正八年四月十五日頃寒胃ノ氣味ナリシガ差シタル事モナク が 
の論感覺モナキガ如ク身体硬ハリテ掘食談話意ノ如クナラズ約八日間 
い勿論感覺モナキガ如ク身体硬ハリテ掘食談話意ノ如クナラズ約八日間 
い勿論感覚モナキガ如ク身体硬ハリテ掘食談話意ノ如クナラズ約八日間 
い勿論感覚モナキガ如ク身体硬ハリテ掘食談話意ノ如クナラズ約八日間 
いの論を見いていました。

微ノ振顫アリ。(小生當日對診)

廿二日 始メテ突然學校へ行カネバ」ト發語シ醉覺狀態水ク漸次快方ニ十八、十九、二十、廿一日前同、食事ハ每食粥二椀ツ、床中ニテナス。

向フロ

廿六日

ナシュ(主治醫高木安治君ノ好意ニテ記錄ヲ得)

快復ス尙日光直射ノ所ニテハ眩瞑アリ遠方ヲ見ル時尙然リ曇天ニハ異常

約十丁斗リヲ往復シタルニ倦怠甚シク廿七、

廿八、廿九ヲ經テ

以上ノ如ク發病ハ急頓ニシテ身体ニ異徴ナキチ以テ急性「スツウビジテ以上ノ如ク發病ハ急頓ニシテ身体ニ異徴ナキチ以テ急性「スツウビジテ

ス」腱反射ナシ談話チ試ムルモー際應答セザルモ突然自己ノ意チ微聲ニ

テ告グルコアリの

ート」、ト診断セリの

經過 攝食遲徐身體漸次衰弱ス。

病症不變ニシテ漸次羸痩脱力ノ感アリロ

診ナキャ」ト稱シ不安ノ狀ナリキ、病症依然トシテ身体衰弱ス。五月二日主治醫多忙ノ爲一日往診セザリシニ甚シク來診ヲ待チ「何故來

五月廿三日虚脱ニ陥り死去。(主治醫石川立知君ヨリ聞取)

以上ノ三例中第一例ハ小生ノ親シク治療セルモノニシテ他二例ハ夫々主治醫アリテ腦症出現ノ故ヲ以テ對診セシ例ニ

屬ス。

原

著

福田

| =流行性寒胃ョリ

| 來ル急性 | スツリピチテート」二就

發。 病。 甚 ピダ急頓 = シ テ全々昏迷狀ニ 陷リ外界ノ刺戟ニ反應セズ自動發語モ不能トナリ家人ノ言ヲ藉ル時ハ 死。

10 傍。 =0 看。護。 スロ jνo ゛ ガ゜ 如。 シロ 觀 ラ呈 ス。

精o 神狀態。 談話動 作不能或い甚シク遅徐 = シテ意志ノ發表不充分ノ為一 見意識 ノ存在ヲ疑フモ全ク昏睡又ハ譫妄狀

佳 良ナ V ۴ æ 後 忘 ル・ガ 如 シ。

態ニ

陷

ÿ

シ

Æ

1

ŀ

異ナリ

經過中

邳

靜

=

シ

テ

幻覺妄想ナク安眠スル

ガ

如ク問ニ

對

ーシテ

時

ħ

適確ナ

jν

應答ヲ

・ナシ

經o 過。 緩徐 ナ jν ガ 如 + Æ 精神症 無い 急 = 去來 シテ發病回 復 急頓ナリ為ニ家人ヲ 驚スコ ŀ 大ナ ŋ 第 例 如 7 =

餘ノ 十六日間目ニ突然父母 所ヲ往復シ十三日日ニ 呼ビ談話 學校へ通學スルニ至レリ第三例ノ如キ叉挨拶中突然發病シ八日間ニハ外界ノ = 至リ第二例 ジノ如キ ハ 五 日間日ニ 突然「學校へ行く」ト稱シ十日 間 刺戟ニ ハ十丁 應

目二

ヲ

ス

jν

ズ jν = 至 V v ガ 如 **シ**。

原。

常 出現 心臟 戟シ殊ニ大腦ノ 皮膚紋畫症、 んし シ /外ハ皆解熱後 因。 æ シ シト 衰弱ノ為脳 テ第三例 多 シ 7 輕 ク ŋ 殊 テ 度ノ ス、 以上ノ三例ト É = 今時 サレ 腦 反射亢進等著明 體 充血ヲ來シ過敏ト 腦 水腫 ノ靜脈系統 ニ發病シ第 バ何故 各組織ヲ 2 流 ン ヲ 行 有 \*\* æ リ症ヲ イ 流行性寒冒 = ス 犯ス事甚シ jν ۱ر ニ受動的 例 最 = ۸, ン 是ニー 出現 ノ フ 旣 æ ナナリ 如 往 著 ıν 一經過 朋 充血ヲ來シ腦實質ノ障碍ヲ セ 牛 I. = ク 致 次デ疲勞痲痺ノ狀態ニ 基因ス但シ第一 = シ Æ ン 殊 モ昏迷狀態ハ下熱後ニ甚 有熱時ニ ザ」ニ本病ヲ發スル シ Ź シ腦ニ多少弱點ア ラ = jν 腦神經系統 本 ŧ 一病例 ナ ŀ ۱۷ 腦膜炎樣症狀ヲ發シ ス 然 例ハ 如 レド キ 對 發病及ビ回 リ尚發病時 輕度ノ腦水腫ヲ有シ日頃頭痛症アリ第二 移 シテハ親和力强ク モ「イ カハ疑問ナルモ本病ノ有スル熱ニ 一發ス 行 ス シ、 ン jν n フ 復ノ急頓ナ サ Æ Æ ۱ jν テ痙攣、 嫁女ノ結納ニテ精神感動 ノト 1 ン 工 力 バ本病ハ熱自身腦及ビ一般神經系統ヲ刺 ン 或八 思 ザーハ 種 項部强直、 ル經過 ァ /Z jν 第 jν 腦及ビ 種ノ ŀ 例 ハ 中 毒所謂 ゥ ジ如 四 ス氏説 毒症狀ニ 神經症狀ヲ 肢 對 キ ノ「リ シ 甚 ۱ر <u>(</u> 有熱時 例 テ シ 類似 如ク **+**" ハ 7 ハ 一般ス 爲二 9 第 性 ヂ゛ テー ス 熱 ぽ 温 刺 發病 حح 例 順 點等 事非 戟症 きし 因 ヲ ŀ 無 脫 セ 

原 著

福田=流行性寒胃ョリ來ル急性「スツウビザテート」ニ就テ

| 四二 |

最後ニ松原博士ノ懇篤ナル指導、學友高木安治君(富山開業)石川玄知君(東水橋開業)ノ好意的材料提供及ビ注意ニ ョリ綜合セバ「ときしん」ニ因ルモノニシテ他ノ熱病ニ於ケル如ク高熱時又ハ心臓衰弱時ニ發スルコト稀ナリトス。

對シ深ク感謝ス。

## 書 目

1) Handbuch der Inneren Medizin (Paul, Krause u. Bon.)

3) 石田昇、精神病學。

4)神經學雜誌第十八卷第三、第四。

5) 同

第五號、(諸岡存、流行性寒胃ョリ來ル精神病)。

2) Lehrbuch der Nervenkrankheiten von Oppenheim.